

キャラクター名	プレイヤー名
ジークリンデ・ソルトライム	

種族	エルフ	種族特徴	暗視、剣の加護/優しき水		
生まれ	神官	性別	女	年齢	42
冒険者Lv	16	経歴			
経験点	6440				

技	9	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
		器用度	9	5		23	3	ソーサラー	2	エンハンサー	6
体	5	敏捷度	8	11		28 + 2	5	コンジャラー	2	アルケミスト	7
		筋力	4	4		13	2	プリースト/サカロス	16		
心	12	生命力	9	22		36	6	スカウト	9		
		知力	9	28		49 + 2	8	レンジャー	7		
		精神力	7	24		43	7	セージ	9		

戦闘特技				言語			会話	読文
ルーンマスター	IB34 p	武器習熟A/スタッフ	IB31 p	エルフ語		○	○	
トレジャーハント	2120 p	MP軽減/プリースト	IB33 p	巨人語		○		
ファストアクション	2123 p	魔法誘導	IB32 p	交易共通語		○	○	
影走り	2120 p	キャパシティ	IB29 p	神紀文明語			○	
治癒適性	2122 p	足さばき	IB29 p	ドラゴン語		○		
不屈	2123 p	魔晶石の達人	IB32 p	ドレイク語		○		
鋭い目	2120 p	ダブルキャスト	IB37 p	汎用蛮族語		○	○	
弱点看破	2121 p		p	魔動機文明語		○	○	
マナセーブ	2123 p		p	魔法文明語		○	○	
魔法拡大/数	IB39 p		p	妖精語		○		
魔法拡大/距離	IB39 p		p					

練技/呪歌/騎芸/賦術	
ビートルスキン	
ストロングブラッド	
メディテーション	
アンチボディ	
ケンタウロスレッグ	
スフィンクスノレッジ	
バークメール	
ヴォーヴァルウェポン	
クラッシュファンク	
パラライズミスト	
イニシアチブブースト	
エンサイクロペディア	
コンセントレイト	

技能	基本	基本	基本	基本追加
	レベル	命中力	回避力	ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

必要	ランク	筋力	回避力	防護点
鎧	コンバットメイドスーツ	10	1	
盾	アステリアの守り	6		1
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				
回避技能	合計値			1 1

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
刻紡ぐ聖杖	2H	5	1	2d+ 1	12	1	15											
魔力+1				2d+														
				2d+														
				2d+														
				2d+														
				2d+														
				2d+														
				2d+														

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP	魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
10 m	30 m	90 m	2d+ 1	1	86	真語魔法	2	11			
魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP		操霊魔法	2	11			
2d+ 18	2d+ 14	2d+ 22	2d+ 23	120		深智魔法	2	11			
						神聖魔法	16	25			

装備品	説明	装備品	説明
頭 とんがり帽子	魔物知識+1		
耳 蝙蝠の耳飾り	目が見えなくても、ペナルティ-2まで軽減		
顔 ひらめきメガネ	見識・探索判定に+1		
首 ポーションインジェクター	魔香水		
背中 野伏のロングマント		ウェポンホルダー	盾装備
右手 疾風の腕輪		左手 叡智の腕輪	
腰 アルケミーキット			
足 聖印			
その他女神のヴェール	回復魔法のC値10		

その他メモ	自動失敗
エリザベート・ソルトライムによく似たエルフの女性。 髪色、瞳の色から顔立ちまでそっくりであるが、性格は正反対。 サカロス神官であり、お酒を常に飲んでいる。	チェック □□□□⑤ □□□□⑩ □□□□⑱ □□□□⑳ □□□□㉕ □□□□㉙ □□□□㉚
気が付くとそこは塔の中。居を構えた部屋の中にはどこぞの神官の置き土産。志半ばでその役目を放棄した半端ものの置き土産。その中に残る“枯れた花冠”を、なぜか私は捨てる気になれない。 夢を見た——それは神に挑む前夜のことだ。 夢の中でも私は私であったが、私でない誰かであった。“私”はロゼッタの寝室に赴くと、大切なふたりの命運を彼女に託した。それは、安らかに眠るロゼッタへ向けられた言葉であり、同時に私へ向けられた言葉であったのかも知れない。翌朝目が覚めると、机の上にあの花冠が置かれていた。しかしそれは、見慣れた桔花ではなく、つい先ほど摘んだ花で作られたかのように、生命力を感じさせるものであった。私はいつもの魔法帽にそれを据え、いつかの未来に背負ったらしい、己らの罪の贖いへ赴く。	

